

[東北学院大学]

牡鹿半島の くらし展 in 仙台

一人ひとりの
くらしの風景が
みえてくる

— 再生・被災文化財 —



入場
無料

期間……………平成26年1月10日(金)－13日(月・祝)

時間……………午前9時30分－午後8時30分

場所……………せんだいメディアテーク1F オープンスクエア

〒980-0821 仙台市青葉区春日町2-1/Tel: 022-713-3171(代)

主催:東北学院大学博物館 協力:石巻市教育委員会

お問合せ:東北学院大学博物館 | 〒980-8511 仙台市青葉区土樋一丁目3-1/Tel: 022-264-6920/Fax: 022-264-6917

牡鹿半島の 暮らし展 in 仙台

— 再生・被災文化財

東北学院大学博物館は、東日本大震災で被災した石巻市文化センター所蔵の「鮎川収蔵庫」の資料を一時保管し、大学生の手によってクリーニングや保存処理、資料整理等を進めています。

この催しは、この牡鹿半島の暮らしを物語る民俗資料を展示し、文化財レスキュー活動について知っていただく展覧会です。

しかし本当の目的は、それらがかつてどのような暮らしの営みのなかで使われてきたか、インタビューによって情報収集をすることにあります。

文化財レスキューで救援した民具に一人ひとりの暮らしの風景が投影され、今を生きる私たちと救い出された文化財がつながっていくことで、新たな意味が生まれていく。

そうした第一歩としてこの展覧会を企画しました。

1

すくう

文化財レスキュー活動

地震や津波で被災したコレクションは、全国の文化財関係の研究者や学芸員等によって救援され、多くの施設に一時保管されています。宮城県内でこうした現場は50カ所程度あり、世界的にみても稀な、大規模な文化財レスキュー活動が展開されました。



2

のこす

コレクションの保全作業

大学に運び込まれた資料は、2年かけて歴史学科の大学生が中心となって手作業でクリーニングをしました。虫害のある資料は、二酸化炭素殺虫処理を施し、海水の影響のある資料は脱塩作業を行っています。展覧会の期間中、保存科学の専門家による解説を行います。



3

つなげる

聞ききによるデータ収集

一時保管している資料を、石巻市鮎川など被災地域に運んで展示する「牡鹿半島の暮らし展」では、大学生が地域の方々にかつての暮らしについてのインタビューを行っています。仮設テントでの展示、地域のイベントでの出展、老人ホームでの聞ききなどを通じて、幅広い世代の方々に、それぞれの暮らしのイメージを語っていただいています。



[交通アクセス]

せんだいメディアテーク

〒980-0821 仙台市青葉区春日町2-1
Tel: 022-713-3171(代)

●鉄道利用: 地下鉄仙台駅から泉中央行きで3分、勾当台公園駅下車「公園2」出口から徒歩6分(約450メートル)

●バス利用: 仙台市営バス

仙台駅前-29番(荘内銀行前)のりばから「定禅寺通市役所前経由交通局大学病院」行き(系統番号J410)で約10分、メディアテーク前下車

市民会館	せんだい メディアテーク ★	東京エレクトロン ホール宮城		定禅寺通
			地下鉄 勾当台公園駅	広瀬通
西公園				青葉通
		晩翠通	国分町通	勾当台通
				地下鉄 仙台駅

仙台駅